

第2章

持続可能な未来につなぐ より良い京都づくりを目指す取組

～京都市の特徴をいかした消費生活に関するさまざまな取組～

京都は、季節の食材を余すことなく使い切る「もったいない」の精神に基づく「しまつの文化」や、京町家に見られる住み継ぐための住まい方の工夫など、ものを無駄にせず、長く大切に使う精神文化、観光旅行者等を迎える「おもてなしの心」など、伝統の中で培われたすばらしい文化が息づくまちです。

また、平成9（1997）年12月に地球温暖化防止京都会議（COP3）が開催され、京都議定書が採択されるなど、環境に対する市民の意識が高く、自由で先駆的な気風を持ち、高い自治の精神を備えた活気あふれるまちでもあります。

本市の各行政部局においては、京都市民の消費生活を支えるため、ごみ減量その他の環境保全、市民生活の安心・安全、環境負荷の軽減につながる地産地消、伝統産業の振興や食文化・生活文化の伝承、食生活の安全・安心、食育、「歩くまち・京都」など、各々の役割を発揮して、さまざまな分野で消費者教育に結びつく、持続可能な未来につなぐより良い京都づくりのための取組を行っています。

環境モデル都市、国際文化観光都市に指定されている京都市が、世界文化自由都市として未来に向かって更に発展していくためには、京都らしいくらしの知恵や文化を次世代に引き継ぎ、実践していくことが大切です。

消費者市民社会を京都から実現するために、京都に暮らす消費者として一人ひとりが自覚を持ち、地域コミュニティや消費者団体、事業者・事業者団体、行政などとともに一体となって行動していきましょう。

1 環境に関するもの

それぞれのライフスタイルに合わせて、できるだけ環境への負荷が少ない生活を心がけましょう。

消費生活を営むことは、環境に負荷を与えるという側面があります。消費者市民社会を実現するためには、大量廃棄型社会を見直し、環境にやさしい事業活動、暮らし方への転換を図っていく必要があります。

京都には「もったいない」に代表される「しまつの文化」があり、門掃きや打ち水といった古き良き伝統が今も引き継がれています。このような伝統を踏まえつつ、「DO YOU KYOTO? の推進」など環境に配慮した新たな取組を積極的に進めています。さらに、循環型社会の形成を目指して、リデュース（ごみの発生抑制）・リユース（再使用）の取組の強化や、雑がみ等資源ごみの分別徹底など、ごみ減量の取組も進めています。

一つひとつの小さな取組も、それを積み重ねることによって持続可能な社会の実現につながります。節電を心がける、マイバッグ等を持参する、すぐにごみになるものを買わない、ごみの分別を徹底する、生ごみを出す前に水をしっかり切るなど、一人ひとりが、できることから行動することが大切です。

取組例

○ DO YOU KYOTO? の推進

「DO YOU KYOTO?」は、京都議定書誕生の地、京都から世界に向けて発信する、「環境にいいことしていますか?」という意味の合言葉です。

京都議定書が発効した平成 17 (2005) 年 2 月 16 日を記念し、毎月 16 日を「DO YOU KYOTO? デー」（環境に良いことをする日）と定め、公共交通の利用や省エネルギーの取組など、環境にやさしい取組を市民や事業者とともに実践しています。

○ DO YOU KYOTO? クレジット制度

京都発の地産地消型の地域クレジット制度「DO YOU KYOTO? クレジット制度」を活用することにより、エコ学区、市民団体や商店街などの地域のコミュニティが主体となった省エネ活動を推進します。

○京都市におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋の削減に関する協定

循環型社会の構築の観点から、レジ袋の使用を抑制し、マイバッグ等の持参を促進することを目的とした「京都市におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋の削減に関する協定」を事業者、市民団体、京都市レジ袋有料化推進懇談会と締結し、協定の普及・拡大に関する支援を行い、レジ袋の削減・マイバッグ等の普及に取り組んでいます。

○「生ごみ3キリ運動」の推進

家庭から出るごみの約4割を占める生ごみの減量を進めるため、食材を使い切る「使いキリ」、食べ残しをしない「食べキリ」、ごみとして出す前に水を切る「水キリ」の3つの「キリ」の取組を推進しています。「使いキリ」「食べキリ」の実践で食品ロスをゼロに、また「水キリ」を実践しごみ量を減らすことを目指します。

また、飲食店や宿泊施設が提供する料理について、「生ごみ3キリ運動」の取組等を推進する飲食店等を募集し認定する「食べ残しゼロ推進店舗」認定制度を実施しています。

○「エコ学区」事業

地域活動の中心的役割を担っている学区において、地域ぐるみで環境にやさしいライフスタイルへの転換や温室効果ガスの削減を図る「エコ学区」事業を推進しています。平成27年度中に市内全222学区において「エコ学区」が宣言され、主体的なエコ活動が行われるよう、環境学習会の開催や支援物品の配布などさまざまな支援をしています。

○こどもエコライフチャレンジ推進事業

子どもたちが地球温暖化問題について自ら考え体験するとともに、家族と共に「子ども版環境家計簿」に取り組むことにより、子どもの視点からライフスタイルを見直し、地球温暖化防止につながるエコライフの取組の定着を図る事業として実施しています（対象：小学4年生（一部の小学校では5年生又は6年生））。

○京（みやこ）エコロジーセンター

地球温暖化防止京都会議（COP3）を記念し、環境学習、環境保全活動の拠点として設置された京エコロジーセンターでは、身近なごみ問題から地球温暖化問題まで、さまざまな環境問題に関する学習機会の提供、活動の支援、情報の発信などを行うことにより、幅広い視点から市民等の環境意識を育むとともに、体験しながら学べる展示や、さまざまな環境イベントの実施、地域の環境保全活動を担う人材の育成など、環境にやさしい実践活動の輪を広げるための取組を推進しています。

2 安心・安全に関するもの

家庭や地域でのきずなやつながりをいかし、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」を目指しましょう。

京都には、地域力や人間力をいかして「自分たちのまちは自分たちで守る」という誇りと気概があります。

また、やさしさあふれるおもいやりの心とおもてなしの心で、国内外から京都を訪れる観光旅行者等を迎えてきました。

子どもから高齢者まで、すべての人の、いのちとくらしが守られることや、お互いに支え合いながら、人と人とのつながりを実感できるようにすることは、消費者トラブルを未然に防ぐうえでも大切です。

取組例

○京（みやこ）の安心・安全お役立ちネット

犯罪や事故、自然災害など、日常生活で何かあったときに、市民生活の安心・安全に関わる本市の取組について分かりやすく調べられるように、関係施策を8体系34項目に分類し、ホームページを通じて情報を発信しています。

○世界一安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動

地域に息づくやさしさあふれるおもいやりの心や、京都を訪れる人を温かく迎えるおもてなしの心、それらを含めた京都ならではの地域力、人間力をいかし、誰もが安心安全に、笑顔で楽しく暮らし、観光できる、やさしさあふれるおもてなしのまちづくりに、市民ぐるみの運動として取り組みます。

○京（みやこ）あんしんこども館

子どもたちの成長や病気など子育ての中で困ったり不安に感じたことを小児医療の専門家が助言したり、子どもたちの死亡原因の上位を占める「不慮の事故」から守るための具体的な情報を紹介するなど、次代を担う子どもたちが心身ともに健やかに育っていくためのより良い環境づくりをサポートしています。

○高齢サポート（地域包括支援センター）

地域で暮らす高齢者を、介護・福祉・健康・医療などさまざまな面から支援するために設置している総合相談窓口です。また、平成24年度以降、1年に1回、市内約7万人の一人暮らし高齢者への戸別訪問活動を実施しており、潜在的な支援ニーズの把握と個別支援につなげています。

3 食に関するもの

「食」を通じた伝統的な食文化の継承，地元産業の振興や地産地消による環境負荷の軽減など，知識を増やして生活にいかすようにしましょう。

京都の食文化には，観光旅行者等の楽しみの一つでもある懐石料理や京漬物，京菓子など，素材をいかしながら，食の安全・安心にもつながる料理の工夫が数多くあります。また，味，栄養価共に優れた旬野菜や京都で生産された食材を購入したり，安全・安心でおいしい京都の水道水を飲むことにより，生産や流通面における環境への負荷も軽減されます。

京都の食文化を支える食品の安全性を確保することは，「おもてなしの心」で国内外からの観光旅行者等を迎えることにもつながります。

取組例

○京の食文化

京都に伝わるさまざまな無形文化遺産を大切に守り，未来に引き継いでいくため，「“京都をつなぐ無形文化遺産”制度」の第1号として，「京の食文化ー大切にしたい心，受け継ぎたい知恵と味」を選定しました。

○京の旬野菜推奨事業

旬の季節のものを食べることは，健康に良く，エネルギー消費の面からも環境に優しい農業につながることから，市内で生産される旬の野菜を供給する体制を整備し，京野菜の伝統を守り，更に発展させていくための事業です。

○すし市場

市民や観光旅行者等も気軽に利用でき，京都中央市場の新鮮なネタを使用したお寿司を味わえる賑わいの施設であり，魚食普及の推進を図っています。

○京の食文化ミュージアム・あじわい館

「京都の四季を五感で味わい，京都の食文化に親しむ！」をコンセプトに，「みる，つくる，あじわう」の3つの機能を持たせた展示資料室，調理実習室，試食室を備えた施設であり，市場の新鮮な食材をいかした料理教室や食文化について学べる講演会などの事業を実施しています。

○食の海援隊・陸援隊

「食」に関心のある市民に食の海援隊・陸援隊の会員になってもらい、「食に関する講演会や交流会」、産地での収穫体験を行う「産地支援活動（海援隊活動・陸援隊活動）」等の事業を実施しています。

○京・食ねっと

「食」を切り口として、健康、食の安全安心、地産地消、環境負荷の軽減など、「食」をテーマとする総合的な情報を発信しています。

○食育指導員の養成及び活動支援

地域に密着した食育推進活動を行うボランティアとして、市内の小学校、保育所（園）、保健センター等で、料理教室等の体験活動や、食文化の継承、食を通じた健康づくり等を行っています。

○食育セミナーの実施

望ましい食習慣を身につけることを目指して、栄養バランスのよい食事の摂り方や、野菜をおいしく食べる工夫、伝統的な京都の食事の紹介などの教室を実施しています。

○食の安全・安心対策の取組

- ・食の安全・安心情報の提供

食品の放射能検査の結果や自主回収情報、食中毒や食品表示の知識など、正確で迅速な情報の公表に努めています。

- ・体験！一日食品衛生監視員

市民が自主的に食の安全安心確保に取り組む姿勢を育むことを目的として、食品工場見学会や食品表示講習会等の参加型リスクコミュニケーションを実施しています。

○小学校における食育の取組

- ・日本料理に学ぶ食育カリキュラム

京料理店の料理人等を講師に招き、子どもたちが「だし」を味わうなど、日本料理を通じて、食に対する興味・関心の向上や、五感を働かせて食することの大切さ、伝統文化の継承等を目指しています。

- ・小学校出前板さん教室

子どもたちにバランスの取れた健康的な食生活を普及・定着させることを目的に、

旬の京野菜や新鮮な魚介類を使って学習する料理教室を実施しています。

- ・京都青果合同株式会社等との連携による食育授業

小学校においてピーマンやミニトマト等の栽培や仕分け等を通じて、子どもたちが食物を育てる大変さや喜びを感じ、食に対する興味・関心を高めることを目的に実施しています。

○学校給食における地産地消（知産知消）の推進

地域でつくられた食物を地域で消費するという「地産地消」に加え、その食物の産地を知り、消費のされ方を知るという『知産知消』を進めています。生産者や自然の恵みなどすべてに感謝する心や、長い歴史が育んだ幅広い食文化、食の安全・安心など、子どもたちに食の大切さを伝えています。

○安全・安心な水道水の提供

京都の水道水は、市販のミネラルウォーターとの飲み比べでも一番おいしい水に選ばれているように大変おいしく、また、市販のミネラルウォーターの約 1.7 倍の 70 項目の水質検査を実施しているため安心して飲むことができます。

さらに、同じ料金ならミネラルウォーター 1 リットルに対し 400 リットルも買えるなど値段もはるかに安いうえに、ペットボトルを製造し運送するためのエネルギーを省くことができるため、環境にもやさしい水です。

そうした水道水のおいしさやクオリティの高さをPRするため、水道水で作ったアイスコーヒー等を提供する「京（みやこ）の水カフェ」や、水道水とミネラルウォーターを飲み比べる「京（みやこ）の水・利き水大作戦」を開催するとともに、市民しんぶん、市バス・地下鉄広告、リーフレット、ホームページなどを通じた広報活動を展開しています。

4 すまいに関するもの

すまいを通して自然との付き合い方を見つめ直し、環境にやさしい暮らしを実現しましょう。

京都の気候、風土、文化に根差した伝統的な京町家には、夏の暑さや冬の寒さをしのぐためのさまざまな工夫が施されています。また、代々住み継いでいくためのすまい方の知恵もあります。

長く大切に使い続ける京都らしい暮らし方の文化を次の世代に引き継ぐことは、持続可能な京都づくりを実現することにもつながります。

取組例

○平成の京町家

京都の木造文化ひいては生活文化を象徴する京町家の伝統と知恵を受け継ぎながら、先端の環境技術を融合させた新しい京都の住宅モデル「平成の京町家」の普及・促進を図っています。

○空き家対策

空き家を「地域のまちづくりの資源」ととらえ、空き家の活用・流通の促進、適正な管理の推進などに、地域・事業者・行政等が連携して取り組むことにより、安心・安全の確保、まちの活力の維持・発展を図り、すまいやまちの文化を次の世代に引き継いでいきます。

○すまいスクール

すまい方及び暮らし方に関する知識を広め、良好な居住環境づくりを目指して、すまいについて身近なことを楽しく学ぶミニ講座や、すまいやくらしの伝統を伝える体験講座などを実施しています。

○耐震対策

地震から市民の命と財産、そして京都のまちを守るためには、住宅・建築物の耐震化を進めることが重要です。耐震診断から耐震改修までを一元的に支援する相談窓口の設置、すまいの耐震化に関する専門家の紹介や助成制度など、耐震化を支援するさまざまな事業を行っています。

5 歩くまち・京都に関するもの

健康で、人と環境にやさしく、まちの活力にもつながる、クルマに頼りすぎない歩くことを中心とした暮らしを大切にしましょう。

京都は、クルマではなく「歩く」ことで、趣あるまち並みや自然景観、歴史的史跡の魅力を感じられるまちです。

また、「歩く」ことを中心とした暮らしは、健康で人と地球環境にやさしく、持続可能な未来を目指す京都のまちにとっても望ましいものです。

このため本市では、平成 22 年に「歩くまち・京都」憲章を制定し、クルマを重視したまちと暮らしを「歩く」ことを中心としたまちと暮らしに転換し、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の取組を進めています。具体的には、①鉄道やバスを便利にして公共交通を使いやすくするための取組、②歩く魅力を最大限に味わえるためのまちづくり、③過度にクルマに頼りすぎることなく歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルの 3 つを柱とした取組を推進しています。

市民や事業者とともに取組を進め、移動手段における「自動車」の割合を 28%（平成 22 年）から 20% 以下にする、脱「クルマ中心」社会を目指しています。

取組例

○歩いて楽しいまちなか戦略（四条通の歩道拡幅工事）

市内最大の繁華街である四条通では、烏丸通から川端通までの車道を 4 車線から 2 車線に削減し、歩道を最大 2 倍に拡幅して快適な歩行空間とし、更なる賑わいを創出するまちづくりを進めています。また、バス停を 4 箇所に集約して分かりやすくし、複数のバスが停車できるテラス型バス停（歩道から張り出した形状）とすることで公共交通を使いやすくします。

○京都駅南口駅前広場の再整備

南北自由通路と直結する駅正面に大屋根を備えた拠点広場デッキ、エスカレーター等を新設し、路線バス乗り場まで雨に濡れることなく直接アクセスできるように改良するなど、「歩くまち・京都」の玄関口として再整備を進めています。

○鉄道・バス事業者と連携した公共交通の利便性向上の取組

世界トップレベルの使いやすい公共交通を目指して、交通事業者と連携し、鉄道

とバスの結節強化や乗継利便性の更なる向上等に取り組んでいます。例えば、洛西地域では、阪急桂駅の鉄道時刻に合わせたパターンダイヤ（10 分間隔のダイヤ）でのバスの運行、各社局別々だった案内表示やバス停の一体化を行いました。

○市バス・地下鉄の利用促進の取組

市バスにおいては、バスの駅をはじめとする快適なバス待ち環境の向上や、より便利で分かりやすい路線・ダイヤの見直し、検討を行うことで利便性の向上を推進しており、地下鉄においては、駅の案内サインの充実、駅や車内の通信環境の整備など、お客様サービスの向上に努めています。

さらに、アイドリングストップバスなどの低公害車を導入することにより、環境にやさしい市バスを目指しています。

○地域と連携した「モビリティ・マネジメント」※

地域住民やバス・鉄道事業者、大学等と本市が連携して、モビリティ・マネジメントに取り組んでいます。例えば、右京区南太秦地域では、住民主体で市バス利用を呼びかけようとマップや時刻表を作って全戸配布するとともに、利用実態アンケート調査を実施することでバス利用者が増えたことから、ダイヤ改正で増便や最終バスの発車時刻の繰り下げを行いました。公共交通の利用促進の取組を進めることで多くの利用につながり、地域住民の公共交通を大切にする意識に交通事業者が更なる利便性向上で応える好循環が生まれています。

※「かしこくクルマを使うこと」を呼びかけ、過度にクルマに頼る状態から公共交通を利用するライフスタイルに自発的に転換することを促す取組

○歩くまち京都アプリ「バス・鉄道の達人」

バスと鉄道を組み合わせて効率的に移動できる乗換検索が可能な無料アプリを開発し、誰もが歩いて出かけたくなる環境を整えています。全国初の機能として、GPSによりその日の道路状況を加味した市バス等の到着時刻を予測して表示します。

○パークアンドライド

京都市内への自動車流入を抑制するため、市周辺部等にある鉄道駅近くの駐車場にクルマを置いて、公共交通に乗り換えて目的地まで移動することができる「パークアンドライド駐車場」として、通年で京都市内外に 5000 台分を超える駐車場を確保しています。

6 教育に関するもの

生涯を通していろいろなことに興味を持ち、身につけた知識をいかして、より良い京都づくりに向けて行動しましょう。

京都ならではの伝統文化体験や環境教育、食育、生き方探究教育など、子どもの頃からさまざまな学びや体験をすることは、自立した消費者を育むことにつながります。

また、「大学のまち京都」の特性をいかし、生涯を通して誰にでも多様な学びの機会が提供され、その成果が社会に還元されるよう行動することが大切です。

取組例

○京（みやこ）カレッジ

個性あふれる大学が集積する「大学のまち京都」の大学講義のほか、公開講座、シンポジウム、フィールドワークを交えた京都をより深く学べるコースなど、行政や産業界との連携や大学の特色をいかした公開講座を受講することができます。

○みやこ子ども土曜塾

「大人みんなが先生に」を合言葉に、また「まち全体を学びと育ちの場に」を目標に、土曜日をはじめ学校休業日に京都ならではの多様な学習資源をいかしたさまざまな学びの場を提供し、子どもたちを育んでいく、市民ぐるみの取組です。

○生き方探究教育（スチューデントシティ・ファイナンスパーク）

学校での学びを社会での知恵としていかす体験学習を通して、自らの生き方を探究するとともに、働くことの意味や社会とのつながりを理解し、社会的・職業的自立のために必要な能力を育みます。

○京（みやこ）まなびネット（生涯学習情報の提供）

生涯学習関係団体等が主催する各種講座やイベント、生涯学習施設などの生涯学習情報を集約し、インターネットにより発信するなど、市民の生涯学習を支援しています。